

平成28年度 長崎県立川棚特別支援学校 学校評価（総括）

校訓 「すこやかで 明るく なかよく たくましく」

学校教育目標

児童・生徒のニーズに基づき、一人一人を大切にしたい指導を推進し、自立して積極的に社会参加する、心身ともにすこやかでたくましい人間の育成を図る。

重点目標

- 1 一人一人を大切にする教育の推進
- 2 児童生徒の健康と生命を守る安心安全な学校づくり
- 3 特別支援教育を担う教員としての専門性を高める研究、研修の充実
- 4 特別支援教育のセンター的機能の推進及び信頼される学校づくり

本年度の努力目標（重点目標を達成するための取組）

- 1—① 児童生徒の命や人権を大切に指導に努め、いじめや体罰のない学校を目指す。
② 一人一人の障害の特性を理解し、障害特性に応じた指導及び支援に努める。
③ 発達段階や生活年齢、及び卒業後の進路を見据えたキャリア教育を推進する。
④ 児童生徒の豊かな心情を育て、自分を表現できる教育活動の充実にも努める。
- 2—⑤ 健康安全と食育に関する指導を充実し、児童生徒の心身の健康を図る。
⑥ 施設・設備や遊具の点検、改修など安全安心な教育環境の整備に努める。
⑦ 緊急対応マニュアルの見直し、改善、緊急時対応への体制整備に努める
⑧ ヒヤリハット事例を共有し、事故防止に努める。
⑨ 保護者の信頼にこたえる学校事務運営や学校施設の計画的な整備に努める。
- 3—⑩ 日々の実践の評価・反省等を基に、小学部中学部の系統性に配慮した教育課程の改善に努める。
⑪ 障害の特性に応じた自立活動等の指導内容、指導方法の工夫、充実にも努める。
⑫ 外部講師や専門家を招へいし、校内研修の充実にも努め専門性を高めるとともに、授業力の向上を図る。
- 4—⑬ 東彼杵郡内、西海市の特別支援教育連絡協議会及び地域の関係機関と連携を図り、コーディネーターを中心として地域に根ざした支援に努める。
⑭ 近隣の学校や地域との交流及び共同学習や居住地校交流を推進する。
⑮ 地域の人材を活用した教育活動を取り入れたり、学校行事を工夫したりして、地域に開かれた学校づくりに努める。

1 評価方法、評価分野と評価尺度

- | | | | | |
|---|-------------------|--------|----------------|------|
| ① 自己評価 | 本校職員 | 12月19日 | 26名／26名 | 100% |
| ② 学校評価アンケート | 保護者 | 12月19日 | 25名／25名 | 100% |
| | 施設職員 | 12月19日 | 17名／17名 | 100% |
| ③ 評価分野（6分野）：「学校経営」「教育活動」「組織運営」「教育環境」「開かれた学校」「人的教育環境づくり」 | | | | |
| ④ 評価尺度 | 4：十分達成できている | | 3：概ね達成している。 | |
| | 2：どちらかという達成できていない | | 1：ほとんど達成できていない | |

2 平成28年度学校評価 自己評価、保護者・施設職員アンケートによる結果

(1)「学校経営」について 自己評価：3.3

- 学校経営方針や努力目標についての教職員の意識は高く、組織として、個人として日々の児童生徒に対する指導実践に努めている。高等部開設に向けた目標等の整理にも取り組み次年度に向けた方向性を示すことができた。周知徹底の中で共通理解を図り、小中高の連携に向けた各学部の経営方針を具体化し、教育活動の充実に努めたい。

(2)「教育活動」について 自己評価：3.3 保護者評価：3.8 施設評価：3.3

- おおむね達成していると考えられるが、専門性、情報の共有、進路指導に「2」の評価が他の評価より多くあった。原因を探り、改善を図っていききたい。
- 教育課程の工夫・改善には授業評価をもとに今年度も取り組んだ。併せて、教科の指導内容チェックリストや自立活動要素表を活用した目標、課題の見直しを進めた。小中高の指導の充実に向け、単元の関係性、系統性などについて共通理解する必要がある。

(3)「組織運営」について 自己評価：3.3

- おおむね達成していると考えるが、校務分掌、校内研究、現職教育に「2」の評価があった。
- 分掌部の活動については計画的に立案、実施、反省、改善が行われているが、仕事内容に対しての役割分担という点ではっきりしない点があったので十分な協議を行い、明確化して職務遂行を進めるよう努めたい。文書管理やファイル整理については、高等部設置による再構築が必要になるので、分かりやすい、使いやすい本校基準を設定、整備していききたい。
- 専門性の向上については、今年度実施した校内研修を検証し、研究推進委員会を中心に内容精選を行い、一層充実していききたい。

(4)「教育環境」について 自己評価：3.2 保護者評価：3.8 施設評価：3.3

- おおむね達成していると考えるが各項目に「2」の評価があった。
- 校舎改修工事等に伴い学習環境に制限がされたことで十分な学習の場の設定や教材教具の整理をすることができなかった。今年度中に工事は終了するので、新年度のスタートに向け、整理と整備を計画的に行っていきたい。また、定期的な点検、補修、改修に努めていききたい。
- 情報機器の整備としてタブレットを購入、活用を行っているが、使用ルール等準備が不十分な状況なので運用マニュアルを作成して充実を図りたい。

(5)「開かれた学校」について 自己評価：3.4 保護者評価：3.8 施設評価：3.2

- おおむね達成できていると考えるが、PTA活動の充実、地域とのつながり、学校開放で「2」の評価があった。
- 地域とのつながりは、老人会や地域の方との交流や作品展の開催、地域清掃等を継続して行っているが、今後さらなる発展に向けた計画の立案を行い、人材活用の具現化に努めたい。
- PTA活動については、保護者の積極的な協力のもと充実が図られている。次年度からは高等部も増え、一層の充実にに向けた取り組みが必要と考えられるので、保護者、教職員がこれまで以上に協力して活動内容の充実や行事参加の増加を目指していききたい。
- 施設開放は内容に応じて対応している。今後も地域への啓発や外部との連携などを充実させていきたい。

(6)「人的環境づくり」について 自己評価：3.5

- おおむね達成できていると考える。各教職員の意識が高く、子供の障害に応じた適切な指導や人権を尊重して指導を進めている。今後も、保護者、施設、地域、関係機関からの信頼を得るよう、専門性を身に付け、指導の充実に努めたい。

3 平成28年度の学校評価の結果からの改善策

(1) 教育活動について

- 新設した校訓、学校経営方針、学校教育目標の学校全体での共通理解と各学部での具現化し、系統的な学習計画の充実を図る。
- 保護者や施設(あすなろ)との連携による個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた指導の充実。
- 情報機器の整備と管理、学習指導への活用を一層充実させる。

(2) 専門性の向上について

- 校内研修会の内容、方法の検討を行い、研修の充実を図り、資質の向上を目指す。
- 外部専門家に指導・助言を受けながら、授業力の向上を図る。

(3) 地域や関係機関との連携について

- 施設(あすなろ)や医療、福祉との情報交換を充実させ、よりよい指導に努める。

